CLUBMAN RACE

2024 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 1

2024 鈴鹿クラブマンレース Round 1
開催報告書

■開催概要

●大会名称　：　2024 鈴鹿クラブマンレースRound1
●主催　：　淀レーシングクラブ（チーム淀）・鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
●後援　：　鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会（FEクラス）、国土交通省（F-Beクラス）
●協力　：　AASC、ARC、ARCN、KRHC、OCCK
●競技　：　JAF公認 準国内競技
●会場　：　鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース（5.807km）
●開催クラス　：　総参加台数／135台
VITA／28台
フォーミュラEnjoy／16台
F-Be／12台
v.Granz／20台
スーパーFJ／22台
FIT1.5／19台
HFRデモンストレーションレース／18台
●開催日　：　2024年2月24日（土）·25日（日）
●天候・路面　：　24日（土）／晴れ・ドライ　25日（日）／雨・ウェット

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2024/clubman/

■次回レース開催概要

●シリーズ名称　：　2024鈴鹿クラブマンレースRound2
●開催日　：　2024年5月11日（土）・12日（日）
●主催　：　AASC、SMSC
●会場　：　鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース（5.807km）
●開催クラス　：　スーパーFJ（2レース）、VITA、v.Granz、フォーミュラEnjoy

ドライだった予選とは一変。ウェットコンディションの決勝レースになった

予選のドライコンディションが一転した翌日の決勝。雨のレースで2024年シーズンの幕が開けた。

鈴鹿クラブマンレースの2024年シーズン。開幕を告げる第1戦が2月24日（土）、25日（日）にかけ鈴鹿サーキットフルコースで開催された。

今シーズンは2023年同様に、Final Roundまでをすべてフルコースで実施されることが発表されている。開幕戦では、v.Granzのワンメイクレースになったv.Granzクラスが20台の参戦を集めてにぎやかにスタート。さらに地方選手権シリーズに位置づけられる「2024年 Formula Beat 地方選手権シリーズRd.1」、併催レースとして「Historic Formula Register（HFR）デモンストレーションレース」も行われた。

このHFRは2001年に発足したもので、伝統的な文化遺産のヒストリック フォーミュラを愛するアマチュア・オーナーとドライバーによるデモレースで、ドライビングスキルはもちろん、入念なメンテナンスによる動態保存の継続、そしてクリーンでフェアな精神も大切なレギュレーションに据える。この日も鈴鹿サーキットでは、まるで宝石のようなヒストリック フォーミュラカーがサーキットを走る雄姿を披露した。

さて、開幕戦の決勝当日となった25日（日）は朝から降雨。最初に決勝レースを迎えたVITAクラスは朝9時のレース開始時点で路面温度が約6度と、雨に加えて低い路面温度もドライバーとチーム関係者を悩ませた。それらを考慮して、レースはいずれもセーフティカーランにてスタートする措置を取り、安全面に充分に配慮して進行。結果としてクラッシュなどによる赤旗中断もなく、すべてのレースを終えている。

次回の第2戦は5月開催。スーパーFJを2レース制で行うほか、v.Granzクラス、VITAクラス、フォーミュラEnjoyクラスを実施することが決まっている。開幕戦のエントリー135台に負けない、盛大でにぎやかな週末に期待したい。

今シーズンからv.Granzのワンメイクレースとなり初開催された「v.Granzクラス」。初戦のウィナーは徳升広平だった

2024 鈴鹿クラブマンレース Round 1
レースレポート（1）VITA class

■VITA class

徳升広平がポールポジションを獲得してレースはスタート。雨の影響もあり、セーフティカーランでの幕開けとなった。2周を終えてリスタートされたまさにその時、最終コーナー立ち上がりでクラッシュが発生。再度のセーフティカーランを余儀なくされる。レース再開後、トップの徳升は快走を続けると増本千春、中里紀夫、鍋家武が追う展開に。すると5番グリッドスタートだった坂野貴毅が追い上げを見せ、5周が終わる頃には2番手につける。徳升を捉えたい坂野だったが、タイムギャップはその時点で約15秒もの大差だ。レースは徳升が勝利、坂野、中里の順でフィニッシュラインを通過した。

見事なポールtoウィンだった徳升広平。2位の坂野貴毅に24秒470の差をつけた

優勝した徳升広平（中）、2位の坂野貴毅（左）、3位の中里紀夫。坂野の追い上げも見応えがあった

■VITA class

ジェントルマンクラスの表彰式。優勝は中島功（中）、田幸和純（左）、大野宗の順

■フォーミュラEnjoy Class

　ポールポジションを獲得したのは松平如水だ。2番手は樋尻勝利、安田知弘、山崎一平のグリッドオーダーとなる。レースはセーフティカーランで進行し、2周を終えてリスタートされる。4周目、2番手の樋尻はついに松平をパスして先頭へ。古里拓が山崎をパス。安田は松平をパスして2番手になるなど上位陣に入れ替わりが見える。トップに立った樋尻は好調な走りをキープ。古里は松平をパスして3番手へ。古里は7周目でファステストラップ2分56秒036をマークするが、2番手の安田とは差が大きい。レースは樋尻がトップチェッカー、安田、古里と続いた。

2番グリッドスタートの樋尻勝利。4周目のS字でトップに立って逃げ切った

優勝は樋尻勝利（中）、2位は安田知弘（左）、3位は古里拓。終盤、古里の猛追がレースを盛り上げた

■フォーミュラEnjoy Class

マイスターズカップの優勝は亀蔵（中）、2位は栢森雅勝（左）、3位には森下吾郎。亀蔵は総合でも8位と健闘した

■Formula Beat地方選手権シリーズRound.1

鈴鹿サーキットで行われた「2024年 Formula Beat 地方選手権シリーズ」の第 1 戦。Formula Beat（F-Be）は、この日の鈴鹿を皮切りに合計9大会、15レースを開催予定。11月10日の最終戦を経て、シリーズチャンピオンの行方が決まることになる。鈴鹿でのレースは参加12台で争われ、5番グリッドスタートだった酒井翔太が勝利を収めている。

レースを制した酒井翔太。5番グリッドから追い上げると、最終的には2番手に37秒100の大差をつけた

優勝は酒井翔太（中）、2位に鈴木智之（左）、3位には加藤智となった

■Formula Beat地方選手権シリーズRound.1

ジェントルマンクラスの優勝は田中諭（中）、髙橋忠克（左）、松本隆行の結果に

■v.Granz Class

セーフティカーランで始まったレースは、2周を終えたところでリスタート。ポールシッターの徳升広平を先頭に関正俊、入谷敦司、金久憲司、大山正芳、AKITAが続く。だが、リスタート早々にシケインでクラッシュが起き、改めてセーフティカーが導入される。レースは残り2周でセーフティカーランが解除されると、トップの徳升の速さが際立つことに。徳升はファイナルラップで2分33秒007とこの日のファステストラップをマーク。2番手の関を引き離して完勝した。2番手は関、3番手に金久の順でチェッカーを受けたものの、金久にはセーフティカーラン中の追い越しによるペナルティが課され、3位表彰台は入谷が獲得した。

ポールシッターの徳升広平が完勝。一度もトップを譲ることのないレース運びだった

1位の徳升広平（中）、2位関正俊（左）、3位に入谷敦司。徳升はこの日、2勝目となった

■Historic Formula Register

ドライバー、そしてチームがジェントルマンであることも重要な資格となるHFRデモンストレーションレース。18台のマシンが参加して、24日（土）に特別走行、25日（日）の午前に予選走行、午後に決勝レースを開催。25日は終日、雨となったものの、無理な追い越しなどをしないクリーンでフェアな精神は健在。ヒストリック・フォーミュラの面白さを伝える走行を見せた。

決勝レーススタート前のグリッド。マシンは製造年代に応じて、3つにクラス分けされた

参加したヒストリック・フォーミュラのなかで、最も古いマシンが走るclass1の表彰式

■Historic Formula Register

合計5台が参加したclass2の表彰式

最も多くのドライバーがエントリーしたclass3

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

雨の影響を考慮して、セーフティカーランによりレーススタート。ポールポジションの中西茂希を先頭に岸元優、杉原悠太、清水悠祐、住直哉が隊列を形成する。2周を消化してリスタートされても中西はトップをキープすると、杉原が2番手に浮上する。杉原は中西を懸命に追い、3番手の清水、4番手の住は単独走行へ。レース終盤で杉原はついにトップに躍り出ると、2番手には清水、中西は3番手までポジションを落とす。清水はトップの杉原に最後まで迫るがパスはできない。トップチェッカーは杉原、清水、中西と続いた。

3番グリッドスタートから、終盤でトップに立って逃げ切った杉原悠太

1位の杉原悠太、2位の清水悠祐、３位の中西茂希。トップ3によるバトルシーンが多く見応えのあるレースだった

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

リスタート後、一気にトップへ。スーパーFJ開幕戦のウィナー。

迫隆 眞 選手（制動屋）

Q：3番グリッドスタートでしたが、序盤の作戦は?
「雨のレースでなかなか前をパスするのが難しい。セーフティカーランが解除されて、リスタートしたら一気に前に出ようと考えていました」

Q：そのリスタートの結果は?
「ためらわずに前に行けたことが良かったですね。リスタートしてすぐにトップに立てました」

Q：トップに立ってから逃げ切るまでの心境はいかがでしたか
「落ち着け！とは思っていましたが、元山泰成選手の追い上げもすごくてプレッシャーを感じました。それでも、周回を重ねるごとに、少しずつ差を広げられました。それが今日の一番良かった点だと思います」